



京都中部総合医療センター

Kyoto Chubu Medical Center



2024年度 看護専門学校卒業証書授与式



CONTENTS

- 院長挨拶……………①
- 京都中部総合医療センター看護専門学校長
退任にあたり……………②

- 赴任医師紹介……………③
- 産婦人科特設サイトを公開しました…⑤
- 診療科紹介 歯科・歯科口腔外科…⑥
- 栄養科コラム季節の食材の栄養情報
春が旬の食材 アスパラガスの紹介…⑥

- 京都中部総合医療センター看護専門学校
卒業証書授与式……………⑦
- 京都中部総合医療センター看護専門学校…⑧
- 京都中部総合医療センターの看護師…⑨
- 令和6年度災害対策研修会を行って…⑩

地域医療支援病院 紹介受診重点医療機関 臨床研修病院
救急告示病院 日本医療機能評価機構認定病院
地域がん診療病院 第二種感染症指定医療機関
地域周産期母子医療センター ヘき地医療拠点病院
京都府地域リハビリテーション支援センター
京都府災害拠点病院（地域災害医療センター）
DMAT 指定医療機関 認知症疾患医療センター
エイズ拠点病院 京都府難病医療協力病院

京都中部総合医療センター

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地
TEL 0771-42-2510代 FAX 0771-42-2096

<https://www.kyoto-chubumedc.or.jp>





病院の理念

地域の拠点病院として、患者さん中心の良質な医療を行い、地域に愛され信頼される病院を目指す。

病院の基本方針

1. 常に患者さんの立場にたち、権利を尊重して適切な医療を行います。
2. 地域医療支援病院として、地域の医療・介護・福祉等と連携しながら、専門診療を推進して地域完結型医療の中心的役割を担います。
3. 第二種感染症指定医療機関として、二類感染症もしくは新型コロナウイルス等感染症に対応した医療を提供します。
4. 救急医療、周産期・小児医療、災害医療を充実させ、いつでも安心して受けられる医療を提供します。
5. 地域がん診療病院として、集学的医療を推進し、高度ながん医療を行います。
6. 働き方改革を推進するとともに、チーム医療を強化し、医療の質・安全性を高めるため、すべての職員の資質向上に努めます。
7. 公営企業としての役割を全うするため、経営効率を高め、健全経営を遂行します。

患者さんの権利と責務

私たちは患者さんの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。

1. 説明を受ける権利
2. 治療を選択する権利
3. 情報を知る権利
4. 個人匿報の保護を受ける権利
5. 他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利
6. 自分の健康情報を正確に提供する責務
7. 説明を理解するまで問う責務
8. 病院での規則に従う責務



初桜に希望を込めて

院長 たつ み てつ や 辰巳 哲也



今年もまた病院の周りで桜が咲き始める季節となり、2025年新年度が始まりました。医療と介護が融合する超高齢社会が進み、人的資源が限られる中すべての職種における働き方改革への対応、医療DXの促進、強固な地域包括ケアシステムの構築など、将来を見据えて病院が取り組むべき課題は山積しています。一方で、物価・エネルギー価格・診療材料費の高騰や賃金アップなどインフレ経済が進行しています。また、医療の質を維持するにも多職種にわたる人材確保はもちろんのこと、高額機器などの施設設備の維持管理・更新費用も必要となります。今の診療報酬体系では病院経営が益々困窮し、本当に「ある日突然、地域から病院が消える」日が来るのではないかと懸念しております。早急に医療業界でも他の産業並みの賃上げができるよう、賃金・物価の上昇を反映できる仕組みの導入を求めたいと思います。

まだ肌寒さの残る4月1日、新たに64名の方々の新採用者辞令交付式が厳粛に行われました。

「初桜 折しも今日は よき日なり」

松尾芭蕉の詠んだ句です。冬の寒さが和らぎ、桜が咲き始めたこの日に、初々しい新職員の皆さまの新たな門出を心からお祝い申し上げたいと存じます。

医師部門では長年欠員であった脳神経外科の常勤医師として木村聡志先生に赴任していただくこととなりました。呼吸器内科、循環器内科、腎臓内科、消化器内科、放射線科が増員となり、脳神経内科、整形外科、小児科、産婦人科は一部メンバーが変わりました。新たに赴任していただいた先生方のお力で、診療が一層充実することを期待しています。特に脳神経外科部長で赴任していただいた木村先生には、脳神経領域の急性期疾患にも外科対応していただき、当院において大いにご活躍していただけるものと期待しています。医師以外にも4月から勤務いただけるすべての職員の皆さまには、心からの歓迎と今後のご活躍を期待しています。

建築資材の価格高騰により、京都中部総合医療センターでは新棟整備プロジェクトの財政再検討を行ってきました。財政安定化へのキーワードは1) 病院間での役割分担・連携体制の強化、2) 基幹病院としての当院における急性期機能のさらなる拡充です。将来に向けた当院の役割として、急性期機能を拡充することにより、医療圏外に流出している入院患者の受け入れを強化し、地域全体の病床稼働を高めていきたいと考えています。

京都中部総合医療センターは地域医療支援病院としての責任と自覚を持ち、新興感染症にも対応し、最適な医療を住民の皆さまに提供するため、職員一丸となって頑張りますので、今後とも皆さまのご理解とご支援を賜りますようどうか宜しくお願いいたします。地域の皆さまが住み慣れた地域で安心して暮らせる社会が続くことを願っております。今年も皆さまの春がさわやかで心暖かなものでありますようにお祈りしております。



京都中部総合医療センター看護専門学校長退任にあたり

前看護学校長 おぐら 小倉 たく 卓

令和7年3月31日をもって定年退職となりましたので一言ご挨拶申し上げます。留学前に前梶田院長が当院に脊椎外科を根付かせてほしいと医局に頼みに来られましたので教授から行ってくれないかと言われ、2004年4月1日に留学を終えて当院に赴任してから早21年が過ぎました。



早速脊椎外科に必要な手術器機や器具、対応可能な手術台、頭部固定器機などを揃え5月から本格的に手術を開始しました。その後大学からの派遣医師を当初4名から7名に増やしていただき最新の脊椎手術器機を購入し、現在では大学を含めて京都府では3台目となるO-アームナビゲーションシステム下で安全、安心かつ精度の高い脊椎手術を行っています。現在手術例は年間130例前後であり京都府下の大学整形外科関係病院の中で大学に次いで2019年度から脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設に認定（2024年現在関連病院のうち3施設）を受け、2023年度から始まった脊椎脊髄外科専門医の養成が可能な施設に位置付けられています。

私は赴任してこられた先生方が整形外科医として働きやすい労働環境を作ることが最重要と考えており、先生方の成長に不必要な仕事はできるだけ排除するように心がけてきました。先日送別会でお会した先生方が大学スタッフ、関係病院の部長や脊椎センター長として立派に成長された姿をみて安堵いたしましたし今後の益々のご活躍を期待しています。

7年前から看護学校の校長を兼任していますが当初卒業生数は年々減少しこのままでは閉校になるのを危惧して、学校の核となる教員を先頭に学生に対して厳しい指導ではなく、学生の自主性を尊重した笑顔の絶えない、季節の節目には住民の方を本校にお招きしてコンサートを行うなど明るい学校づくりを目標に掲げて一部改革を進めてきました。その結果2025年度の入学者数は京都府下のほとんどの看護学校が定員に満たない中、本校は40名の定員を満たすことができ目標に掲げた方針が間違っていないことを確信しました。

去年4月に、令和7年3月に定年になる旨教授へ報告し、定年後に私がもう少し働ける病院があれば紹介して欲しい旨申し上げましたところ、本年1月に私が希望していた以上の素晴らしい病院を推挙していただきました。教授には感謝してもしきれないほどで、今後も微力ではありますが整形外科教室の発展に尽力していきますので、今後ともご指導ならびにご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。また脊椎外科医を目指す若手の育成が今後の私の役目であるとともに、大学脊椎班の准教授、医局長ならびに脊椎外科指導医を支えていく形で臨床ならびに研究のお手伝いが出来ればと考えていますのでよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが京都中部総合医療センターの職員の皆様方のご健勝と今後の活躍を祈念しまして簡単ではございますが私からの退任の挨拶とさせていただきます。



赴任医師紹介

呼吸器内科

医師 よねもと ゆうじ 米本 湧蒔 (令和5年卒)

宮崎大学を卒業後、大津市民病院と滋賀医科大学医学部附属病院にて初期研修を修了いたしました。呼吸器内科として1年目であり、至らない点も多くあるかと思いますが、少しでも患者さんの役に立てるように日々精進してまいります。



消化器内科

医師 さわい ゆうき 澤井 裕貴 (平成25年卒)

昨年度までは、舞鶴医療センターで勤務しておりました。消化器内科一般に加え、主に胆膵領域の治療に携わっております。地域診療に少しでも貢献出来るよう、誠心誠意勤めさせていただきます。不慣れな点も多く至らぬ点もあるかと思いますが、どうぞ宜しくお願いいたします。



医師 かとう ひろき 加藤 大貴 (令和4年卒)

1年目は京都第一赤十字病院で研修してまいりました。まだまだ知識・技術ともに未熟ではありますが、消化器内科医として、また内科医として成長できるよう努めてまいります。病院見学の際には、大堰川の美しい景色に感動し、この地で働けることを楽しみにしております。しっかりと診療に励みながら、自然に癒されつつ頑張っていきたいと思っております。



医師 てらぐち ゆうき 寺口 勇樹 (令和5年卒)

2年間初期研修ではとてもとてもお世話になりました。ご迷惑をおかけする場面もありましたが、上級医の先生含め多職種の方々にも暖かく接していただきました。4月からは消化器内科に所属し心機一転、病院に貢献できるよう頑張ります。わからないことも多くなんだこいつはと思う場面も多々あると思いますが、精一杯頑張りますので寛容な心で見守っていただければ幸いです。



循環器内科

医師 くぼた ひろし 窪田 浩志 (平成25年卒)

京都中部総合医療センターは初期研修から合わせて5年間勤務し、この度ご縁があり7年ぶりに勤務させていただくこととなりました。育てていただいた南丹医療圏に恩返しができるように精進いたしますので、よろしくお願い申し上げます。



医師 いまなか まい 今中 真生 (令和4年卒)

この度、京都府立医科大学附属病院から赴任いたしました。循環器内科医として京都中部総合医療センターで勤務させていただけることを大変嬉しく思っております。患者さんやご家族に寄り添いながら安全な医療を提供し、地域医療にも貢献できますよう日々精進してまいりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。



医師 おがわ しゅうへい 小川 修平 (令和4年卒)

京都府立医科大学を2022年に卒業いたしました。在学中はハンドボール部に所属しておりました。卒業後は京都第一赤十字病院で2年間の研修を経たのちに循環器内科専攻医としてそのまま京都第一赤十字病院で1年間所属しておりました。まだまだ未熟者でありたくさんご迷惑をかけることになると思いますが、精一杯努めさせていただきますので1年間よろしくお願い申し上げます。



医師 かたかた しょうご 懸高 祥梧 (令和5年卒)

当院での2年間の初期研修を修了し、引き続き4月から勤務させていただくことになりました。患者さん目線の分かりやすい説明、丁寧な診療を心掛け、南丹医療圏の地域医療に貢献できますよう努めてまいります。至らぬ点も多いかと存じますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。



内分泌・糖尿病・代謝内科

医師 ひろなか じゅんや 広中 順也 (平成 27 年卒)

これまで代謝内分泌を専門とし、大学院での研究や診療を通じて経験を積んでまいりました。患者さんの声に耳を傾け、最善の医療を提供できるよう努めるとともに、地域医療の発展に微力ながら貢献したいと考えております。



脳神経内科

医員 くぼた みさき 窪田 美沙紀 (平成 31 年卒)

この度、京都府立医科大学附属北部医療センターから赴任いたしました。神経疾患からくるご症状でお困りの患者さん・ご家族に寄り添い、一人でも多くの方のお役に立つことができるよう、日々精進していく所存です。未熟な点が多く、お世話になることが多々あるかと存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。



医員 かない たけのり 金井 武紀 (令和 5 年卒)

京都第一赤十字病院、京都府立医科大学附属病院で初期研修を終え、今年度より脳神経内科医として赴任いたしました。医療スタッフ間、医師－患者間の良好な信頼関係が良い診療につながると考えています。真摯で誠実であることを忘れず精一杯努力してまいりますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。



腎臓内科

医員 まつもと ひとみ 松本 瞳 (平成 31 年卒)

当院では、初期研修の2年間と専攻医1年目の頃に大変お世話になりました。京都府立医科大学附属病院と明石市立市民病院での勤務を経て、3年ぶりに当院で再び勤務させていただく事となり、嬉しいと同時に身の引き締まる思いです。患者さんやご家族が日々の生活を送るために、医療の面から何が出来るかを一緒に考えながら精一杯努めます。よろしくお願いいたします。



小児科

医師 かつらぎ たくみ 葛城 卓弥 (平成 26 年卒)

大学卒業後、さまざまな病院で小児医療に携わり、大学院では基礎研究にも取り組んできました。お子さんとご家族が安心して診療を受けられるよう、わかりやすい説明と温かい対応を大切にしています。病気の治療はもちろん、健康相談や育児の悩みにも寄り添いながら、地域の皆さまのお力になれるよう努めてまいります。



医員 よどい ともや 淀井 智也 (令和 3 年卒)

自治医科大学を卒業後、北部医療センターで初期研修を受け、その後は市立福知山市民病院や京都府立医科大学附属病院で小児医療に携わってきました。医師としてまだまだ学ぶことも多いですが、地域の子どもたちの健康と成長を支え、ご家族と一緒に安心して診療を受けていただけるよう努めます。



医員 ふじた かつゆき 藤田 克行 (令和 5 年卒)

専攻医1年目として小児科で勤務いたします。初期研修では1年目を京都中部総合医療センター、2年目を京都府立医科大学附属病院にて過ごさせていただきました。小児科医としての第一歩を再び当院で踏み出せることをとても嬉しく思っています。初期研修で学んだことを活かしつつ、小児科医として研鑽を積み、地域医療に貢献できるよう精進してまいります。



整形外科

しみず ゆういち
医長 清水 佑一 (平成 24 年卒)

自治医科大学を卒業後、2年間の研修を経て、京都府立医科大学整形外科に入局しました。その後京都中部総合医療センター、綾部市立病院を含む京都府北部の病院で6年間勤務しておりました。京都府立医科大学大学院に入学し、年間基礎研究、臨床研究を行いました。一般的な整形外科診療だけでなく、脊椎脊髄領域を専門としております。今までの研鑽を少しでも地域医療に還元できるよう精進してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



脳神経外科

きむら さとし
部長 木村 聡志 (平成 5 年卒)

大阪市生まれ、小学校から大学5回生まで滋賀県大津市に住んでいました。大学卒業後は大阪、京都の病院で脳血管障害や頭部外傷の外科治療を担当しておりました。大学に在籍時には脳の微小循環に関わる研究をしていた時期もあります。1名での赴任は初めてのことで、どのような医療が提供できるか模索している状況です。何卒よろしくお願い申し上げます。



産婦人科

おおや よしの
医員 大家 美乃 (令和 4 年卒)

産婦人科医としての第一歩をここで踏み出せることを嬉しく思います。日々の診療を通じて知識と技術を深め、患者さんにとって安心できる医療を提供できるよう努めてまいります。まだまだ学ぶことばかりですが、精一杯取り組みますので、どうぞよろしくお願いいたします。



放射線科

こてら ゆうや
医長 小寺 雄也 (平成 27 年卒)

京都府立医科大学附属病院、京都第一赤十字病院、京都第二赤十字病院、済生会滋賀県病院、松下記念病院で勤務し、4月より当院放射線科に赴任しました。画像診断を通じて南丹医療圏の皆様にご貢献できるよう精進してまいります。何卒よろしくお願い致します。



産婦人科特設サイトを公開しました

この度、当院産婦人科の特設サイトを開設いたしました。

妊娠中の不安や疑問、出産に関する情報、産後のケアなど、これからママになるあなた、そしてご家族の皆様へ役立つ情報をお届けします。

当院では、経験豊富な医師や助産師が、妊婦さん一人ひとりの状態に合わせた、安全で安心なお産をサポートいたします。

新しい命の誕生というかけがえのない瞬間を、私たちと共に迎えください。



【産婦人科 特設サイト】

<https://www.kyoto-chubumedc.or.jp/shinryou/kamoku/sanhujin/sanhujin-sp/>



歯科・歯科口腔外科

Dentistry, Oral and Maxillofacial Surgery

あめみや たけし
歯科・歯科口腔外科部長 雨宮 傑

当科では、口腔外科疾患を中心に、有病者歯科・顎関節疾患・口腔粘膜疾患など、幅広い歯科疾患に対応しています。特に、心疾患・糖尿病・脳血管障害などの基礎疾患を有する患者の歯科治療を多く手がけ、一般歯科医院での対応が難しい患者の治療に重点を置いています。また、口丹波歯科医師会をはじめとする地域の歯科医師会と連携し、多くの患者さんをご紹介いただいております。

現在、歯科外来には、治療用歯科診療台（4台）、歯科デジタルパノラマ・口内法エックス線画像診断システム、Er:YAG レーザー、歯科用口腔外バキューム、オペレーティングライト一体型カメラなどを備え、日々の診療を行っています。

●診療内容

- 口腔外科疾患：顎骨内埋伏歯、炎症（智歯周囲炎・顎骨骨髓炎・菌性上顎洞炎など）、嚢胞、顎口腔腫瘍、外傷（顎骨骨折・歯牙脱臼・口腔内および周囲の裂傷）に対し、術後の口腔形態および機能温存を考慮した手術を行っています。
- 有病者・障害者の歯科治療：外来または入院下での全身管理のもと、一般歯科治療から障害者歯科治療、口腔外科疾患の治療まで対応しています。また、歯科治療恐怖症の患者に対しても、全身麻酔や静脈内鎮静法を用いた治療・手術を実施しています。
- 顎関節疾患：顎の痛みやクリック音を伴う顎関節症に対し、薬物療法・スプリント療法（口腔内装置）などの保存的治療を行っています。
- 周術期および回復期口腔機能管理：がん治療（手術・放射線治療・化学療法）を受ける患者や回復期の患者に対し、医科と連携のもと、口腔機能の維持・改善を目的とした管理を実施しています。
- その他の治療：医療用ハードレーザーを用いた治療、顎義歯（顎顔面補綴）などの特殊治療も行っています。また、睡眠時無呼吸症候群に対するスリープ・スプリント（口腔内装置）治療も実施しています。

●地域医療との連携と今後の展望

地域の医科・歯科の先生方から多くの患者さんを紹介いただいております。今後も連携をより密接かつ円滑にし、安心してご紹介いただける関係の構築に努めてまいります。また、総合病院内の歯科としての特性を活かし、各診療科と連携しながら周術期および回復期の口腔機能管理を積極的に行い、口腔環境の整備・管理を通じて、関連する合併症の予防に努めてまいります。



栄養科コラム 季節の食材の栄養情報

春が旬の食材 アスパラガスの紹介

にしかわ はるか
管理栄養士 西川 悠

暖かい時期にはいろんな食材が旬を迎えます。その中で今回は春に旬を迎えるアスパラガスについて紹介させていただきます。

アスパラガスは鮮度が命、そのためおいしく食べるポイントは購入後すぐに食べることをおすすめします。おいしいアスパラガスの見分け方として、穂先が詰まったまっすぐなものを選びましょう。また、お住まいから近い産地であることも重要なポイントです。すぐに食べない場合、アスパラガスは上に伸びていく性質があるため、新聞紙でくるみ野菜室に立てた状態で保存するようにしましょう。

おいしく食べる方法として、根元は固いためピーラーでむきましょう。はかまが気になる場合は取り、気にならない場合はそのままですと湯がいて食べることがおすすめです。湯がく時間としても数十秒で火が通るためなるべく短時間で湯がくようにしましょう。その方が栄養価もしっかり摂ることができます。

アスパラガスはいろんな栄養素が豊富で、風邪やストレスと闘ってくれるビタミンC、若返りビタミンといわれているビタミンE、血管を丈夫にする作用のあるルチンや、アスパラガスから発見された疲労回復につながるアミノ酸の一種であるアスパラギン酸など多くの栄養素を含んでいます。アスパラガスを食べて春を感じてみられてはいかがでしょうか？



京都中部総合医療センター看護専門学校卒業証書授与式

京都中部総合医療センター看護専門学校副学校長 あさだ みか 浅田 美佳

厳しい寒さも和らぎ春らしく穏やかな気候に心とむ季節となりました。2025年3月5日、全ての教育課程を終え晴れて本校を卒業される学生の皆様、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。37名の卒業生を送り出せることを心から嬉しく思います。またご家族の皆様にはご子息・ご息女を深い愛情をもって支えていただきましたこと、本校の教育へのご理解とご支援をいただきましたことを心から感謝いたします。

今回の卒業生は2022年に入学しました。2022年はまだ新型コロナウイルス感染症が蔓延しており対面授業とオンライン授業を併用しながらでの学習のスタートでした。臨地実習も限られた日数であり、どれだけの事を体験し学べるのか、体験できないことで不安にならないだろうか、と心配していましたが学生の皆さんは常に積極的で明るく知識と技術を習得したいと一生懸命に取り組んでいた姿を思い出します。

新型コロナウイルス感染症は収束しない状況でありましたが、母体病院である京都中部総合医療センターをはじめ地域の施設、保育所などに実習を受け入れていただき2023年度からは滞ることなく臨床での実習を終えることができました。特に病棟での実習は患者さんへの感染防止が最優先となるため、学生だけでなく教員の体調管理を徹底し、京都中部総合医療センターと密に連絡を取り合いながらの臨地実習でした。このような状況の中で「1日でも臨床実習をさせてあげたい」と辰巳院長から温かいお言葉をいただき、増谷看護部長、スタッフの皆様には実習病棟の配置、実習指導者の確保など多岐にわたりご配慮いただいたことを深謝いたします。

卒業生の皆さん、4月からは看護師として医療現場を担っていくことに不安な気持ちもあると思いますが今まで育てていただいた医師、看護師、医療従事者ならびに病院事務職員一同が優しく迎えてくださいますので、安心してください。そして患者さんに寄り添い誰からも信頼される看護師としてご活躍されることを心から願っています。

本校も校名変更から3年経ち見えてきた課題を克服できるよう精進してまいりますので、これまでと同様にご高配ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



「2年生に向けて」

1年生 ほりい さき
堀井 咲姫

入学してからの1年間で解剖生理学、病態学、疾患の症状、検査、治療、様々な看護技術を学びました。はじめて患者さんに援助を行う実習では不安なことばかりでしたが、患者さんの状態を知るために教科書だけでなく図書室の参考書で調べることでたくさんの知識を身につけることができました。

また学校での学びを基に患者さんに合わせてコミュニケーションや援助方法を応用させていく必要性も学び、夢である看護師になるために少しずつ近づいていると感じました。2年生では、知識や看護方法を身につけ、患者さんに寄り添えるよう頑張っていきます。



「実習からの学びと3年生に向けて」

2年生 つちなが まゆ
土永 茉優

2年生の最後の臨地実習は3週間という今までで1番長い実習でした。これまでより身近に患者さんと関わることができ、深く学びを得ることができました。患者さんに必要な看護を考え看護計画を立案しパンフレットの作成や患者さんのADLに応じた援助を行いました。少しずつでしたが退院後の生活に向けて患者さんの意欲は高くなりました。

患者さんの意欲を高める関わりや自立した生活をするための援助方法を考え実施することの大切さを学ぶことができました。3年生の領域別の実習ではより専門的な知識をつけ、個別性に応じた看護を行なっていきたいと思います。



「3年間の学びを終えて」

3年生 せま あいり
瀬間 愛梨

看護学校での三年間で多くの学びと気づきがありました。特に患者さんとのコミュニケーションの大切さを学びました。言葉だけでなく、表情や態度からも気持ちを読み取り信頼関係を築けるように努めることが患者さんに対してより良い看護につながると分かりました。

これから看護師として働く中で、患者さんが何を思い、どのような気持ちでいるのかを深く考え、一人ひとりに寄り添う看護を実践したいと考えています。そして、不安や痛みに寄り添い、安心を届けられる看護師を目指します。



※学年は令和6年度のものとなっています

京都中部総合医療センターの 看護師



私たちと一緒に
働きませんか？
共に働く仲間を
歓迎します！



副看護部長
まつおか みよこ
松岡 美代子

学び続ける私たち

副看護部長 ふなこし ちさと
船越 千里

当院では、新人看護師教育の一環として入職時看護観を記載してもらい、1年間を通じて思い出に残った患者さんのナラティブ発表会を行っています。毎年それぞれの看護が目に見えるようで楽しみにしています。

今年度、小松凜翔さんに院内ナラティブ発表会のあと、令和7年3月、国保診療協議会看護師部会において発表をしてもらいました。自己の看護をしっかりと振り返っておられ、今後の成長がとても楽しみな発表でした。堂々と正面を向いて発表している姿を見て「これからもともに頑張りましょうね」って心の中で応援していました。今後も自己の看護を振り返るナラティブ発表会を継続していきます。

2年目看護師 こまつ りんと
小松 凜翔

昨年4月から新人看護師になり1年が経ちました。

新しい環境で覚えることも多く、患者さん一人ひとりに適切な看護を提供できているか不安もありましたが、2階東病棟ではたくさんの経験や業務が出来るように周りの上司・先輩方が手厚くご教授してくださいました。現在では当初の不安は少しずつ克服でき、臨床判断や専門知識の習得が出来てきたと感じています。

しかしながら、まだまだスキルや知識が足りないと感じることも多く、急変時や難しい症例に対して自信が不足しているのが課題点です。2年目看護師になる目標として、これから分からないこと・不安なこと事は積極的に上司・先輩と相談し、自分が教えてもらった事を1年目の後輩にも伝えていきたいと考えています。上司や先輩・後輩から2年目の看護師として見てもらえるように、学ぶ姿勢を忘れず看護を実践していきます。



副看護部長 まえばやし けいこ
前林 佳子

2年目の看護師は、担当患者さんに提供した看護実践を振り返り、ケースレポートにまとめて院内で発表しています。

各部署では、チーム活動や看護研究・看護実践報告等に取り組む中で、看護チームで学びを深めています。また院内外での研修受講や学会参加などで得た学びを共有し、共に学び合いながら質の高い看護を提供できるように努めています。



ケースレポート発表会



看護研究・看護実践報告会

令和 6 年度災害対策研修会を行って

副院長 けい ら なつ や
計良 夏哉

令和 7 年 1 月 30 日の木曜日に当院の講堂で全職員を対象として「令和 6 年度災害対策研修会」を開催しました。当院の災害対策委員会の委員長である辰巳哲也院長が挨拶された後に大阪市の厚生労働省 DMAT 事務局よりお越しいただいた松田宏樹先生と黒田愛実看護師にご講演を賜りました。二市一町の保健医療福祉に関連した各団体で構成されている「南丹地域災害医療連絡会」の皆さんにはインターネット環境で参加していただきました。

松田先生は「災害拠点病院における災害対応」として、災害対応の本質、指揮命令系統の確立、災害拠点病院の役割の三つの章立てでお話しされ、基調講演と言うべき内容でした。DMAT 隊員の養成研修や技能維持研修でされるような講義を一般の職員にわかりやすく説明してくださいました。病院が被災した時の評価やダメージコントロールについて過去の事例に基づいて、災害拠点病院の役割については令和 6 年 1 月の能登半島地震の実例をもとに、支援する DMAT 側の考えもお示しいただいた上で、被災地の災害拠点病院になったときにどのように役割を果たすべきかについて解説してくださいました。

黒田看護師は「災害拠点病院として災害に備える～看護師の視点から～」と題して、能登半島地震の事例を取り上げられ、患者に常から寄り添っておられる看護師目線で患者の安全、ライフラインそして病院・施設避難などについて講演されました。また、被災しながら懸命に業務をされた、もしくは業務ができなかった看護職、介護職、看護学生への精神面のサポートについても紹介されました。最後に「ひとたび災害が起きると普段できていたことができなくなる／様々な制限がかかる／できないことでたくさん辛い思いもする／それは患者・家族だけでなく職員も同じ／でも普段からの備えをしておくことで防げる／患者・家族のそばにいる看護師だからこそ／できることはたくさんある！」というメッセージを示されました。

職員それぞれの立場で感じるものが違ったと思われますが、参加者にも大変好評で、災害対策委員会としても今後の展望をイメージできた有意義な研修会となりました。



助産師・看護師・ケアワーカー 募集中!!



令和7年度 看護部新入職スタッフと共に

一緒に働く仲間、大募集

新しいこと、極めること、仲間とともに



看護師寮利用できます。(正職員)
月額 4,000 円 (税込)

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.kyoto-chubumedc.or.jp/nurse/>



編集後記

春の季節を迎え、暖かく過ごせる気候になりました、皆さんどうお過ごしでしょうか。今年の冬は寒波が襲い災害級の大雪や積雪で交通障害などが発生しました。こうした中、当院では災害対策研修などを行なって災害での対応に備えています。誌面では赴任医師の紹介や歯科の紹介、看護学校の卒業式、災害対策研修などの記事を掲載していますので興味を持って読んでいただければと思います。

広報委員 Y.T.

病院スタッフはマスクとゴーグルを着用して業務を行っておりますが、撮影のために一時的に外している場合があります。ご了承下さい。

